

令和 7 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	38	学 校 名	駿河総合高等学校	記 載 者	小 原 快 章
------	----	-------	----------	-------	---------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	多様な学習ニーズに対応した学力向上と主体的に学ぶ意欲態度の育成	(1) 生徒アンケートの「本校の授業は、内容、進度等が適切で、学力を向上させるのに役立っている」での肯定的な回答が 90%以上。	B	B	(1) 生徒調査 Q18 の推移 R6 (92.4%)→R7 (88.5%) ・今後とも、一人一人に対応した学力向上に取り組んでほしい。 ・具体的な施策を示してほしい。
		(2) 外国人生徒への支援に関わる教職員・支援員を増やす。			(2) 昨年の学校評価時に、県教委のサポート事業に応募し対応したいとのことであった。成果と課題に表記されているように、各生徒のニーズにあわせた支援と調整役の教員の負担軽減に配慮を願いたい。 ・よい取り組みであると思う。 ・人員数は適正か。
		(3) 「図書館を授業や探究活動、自習などで利用した」と答える生徒 80%			・市商の頃から図書館経営は評価が高い。継続してほしい。 ・図書館以外に利用価値を置いているのか。 ・図書館の利用者が少ないのが残念である。
		(4) 分析会を実施、教員間で情報共有、学習指導と学力向上に活用する。			(4) 教員調査 Q5「教材や教え方を工夫した取組を実践している」100%、Q11「授業研究会で学んだことを自分の授業に活用するなど、授業改善に努めた」92.2%と高い回答が出ている。今後も授業改善を推進してほしい。 ・評価できる。
		(5) (6) 「子どもは家庭での学習習慣が身についている。」と答える保護者 60%以上			(5) (6) 保護者調査 Q3 の推移 R5 (60.8%)→R6 (42.2%) → R7 (45.5%) ・この項目は非常に悩ましい。子どもが自らというところに至るまでにはどうすべきか考えさせられる。 ・主体的、自律的姿勢の育成を総合的に進めてほしい。

様式第 5 号

					・家庭で勉強する必然性がないのではないか。 ・家庭学習も特に 1・2 年生は頑張してほしい。
イ	品位ある生活態度の育成と個人の意思を表明できる環境づくり	(1) いじめに関するアンケートを学期に 1 回 (年 3 回) 実施する。 (2) 「私は、髪型や服装等を高校生らしく整えている」と答える生徒 100% (3) 「私は、情報モラルを理解したうえで、適切にケータイ、スマホ、ネット等を利用している」と答える生徒 100%	B	B	(1) いじめアンケート 3 回実施。きめ細かな対応を継続してもらいたい。 (2) 生徒調査 Q7 の推移 R6 (99.1%) → R7 (97%) 高い数値であると思う。一時的な低下の範囲か。 ・どの程度の乱れか。個性なのか。 (3) 生徒調査 Q12 の推移 R6 (98.2%) → R7 (97.6%) 高い数値であると思う。一時的な低下の範囲か。 ・100%というところに少し危機感を抱く。「適切に」という曖昧な言葉への解釈に不確実さを感じる。 ・主体的に自らの生活を改善する仕組みづくりを行うとよい。 ・「晒す」という行為が近年話題ではあるが、家庭ではもちろん言うことを素直に聞き入れない年代のため、学校からの指導もいま一度していただけると安心できる。 (1) (3) 良好な結果であると思う。最近、女子生徒のわいせつ画像が SNS で拡散する事案が立て続けに生じたこともあり、情報モラルの周知やいじめ等の相談を受けやすくする雰囲気づくりに尽力してほしい。

ウ	計画的なキャリア支援 による個に応じた適切な 進路の実現	(1) 「本校は、適切な科目選択のために、十分な指導を行っている。」と答える生徒、保護者 90%以上(1・2年生)	B	B	(1) 素晴らしい取組であると思う。
		(2) 「私は、自分の考えに基づいた科目選択ができている」と答える生徒、保護者が 90%以上(1年生)			(2) 素晴らしい取組であると思う。
		(3) (4) (5) 「本校は、生徒一人一人に対応したきめ細かな進路指導を行っている」と答える生徒、保護者 90%以上			(3) (4) (5) 保護者の数値が低下している。 ・2年生の保護者だけ数字が低いのが気になる。 (3) 「積極的に取り組ませ」の言い回しを改めてほしい。 ・個に対する対応は大変だが、頑張ってもらいたい。 ・面談時、選択科目変更時にもよく相談に乗っていただけたと思っている。
		(6) 「本校は、各種の進路行事や面談等を通じて進路に関する情報を十分提供している。」と答える生徒、保護者 80%以上			(6) 多様な進路選択を生徒が自分と向き合う中で主体的に行っていけるサポートを引き続きお願いしたい。 ・学校職員の指導だけでなく、企業のリアル情報を小・中・高それぞれのタイミングで提供してほしい。

エ	保健・安全指導の徹底と体力づくりの強化による心身の調和のとれた育成	(1) ・交通事故数年間 10 件以下 ・イエローチケット指導数年間 200 件以下 ・交通安全に関する確認テスト 1 年生全員合格	A	A	(1) 交通事故は減少 (11 件→9 件) している。イエローチケットの減少に努めてほしい。 ・この項目の目標値は「事故ゼロ」とすべきだと思う。 ・ヘルメットは保護者自身も着用が低いと見受けるので、子どものみでなく親も着用するようつとめたい。 ・昨年度より全校生徒数が減っているにもかかわらず、指導数が増えてしまったのは残念である。
		(2) 各学年における情報交換会月 1 回実施			(2) 情報交換等の連携体制。 ・密な共有をお願いしたい。 ・よい。
		(3) 心の健康アンケートの年 2 回実施と「有意義な学校生活が送れている」と答える生徒 90%以上			(3) 心の健康アンケート学校全体の連携体制の成果と考える。 ・若干抽象的で評価が難しい。
		(4) 朝食摂取率が 90%以上			(4) 継続してほしい。
		(5) 保健だよりへの掲載、Instagram への動画作成、学校保健委員会等の発表による活動を年に 3 回以上実施する。			(5) 味噌づくりの取り組みを拝見した。食文化や年中行事について、考えるような機会が高校生の年代にあればよいと感じる。 ・素晴らしい取組だと思う。 ・生徒（受け手）はどう情報をとらえているか。
		(6) 「清掃活動を責任もってやった」と答える生徒が 70%以上			(6) 素晴らしい取組だと思う。

オ	人権尊重、共生・共育による自己肯定感を高める活動及び環境整備	(1) 静岡県人権教育の手引き「教職員の人権感覚チェックシート」の利用 100% (2) 人権教育振り返りアンケートで、心理的安全性に関連する項目の肯定的回答が教員、生徒ともに 80%以上。 (3) 交流を通して、分校の学びを理解できたと答える生徒が 50%以上	B	A	(1) よい結果である。 (2) 今後も学校運営協議会などの合同開催を推進してもらいたい。 (3) 南の丘分校との交流は本校の特色のひとつ。引き続き進めていきたい。 ・とても大切な取組だと思う。 ・全体的にすばらしいと思う。
カ	地域連携を推進し、SDGs を意識した他者との協働による地域社会発展への寄与・参加	(1) 研究発表や交流活動等に積極的に参加する生徒 30 人以上、先進的実践の情報収集に臨む職員（延べ）6 人以上 (2) マスコミ掲載回数 20 回件以上 (3) P T A・後援会の参加率 60%以上 (4) (5) 「本校は、ホームページや SNS、公開授業等を通じて、学校の情報を保護者や地域に積極的に公開している。」と答える保護者 90%以上 (6) 学校運営協議会でいただいた評価や意見を、教職員と情報共有して、実際に学校運営に反映させる。	A	A	(1) 生徒 38 人、職員 10 人で目標を達成している。引き続き推進をお願いしたい。 ・もう少し目標値が高くて也十分やっていけると思う。 (3) 共働き世帯も多いと思われ、P T A、後援会への積極的な参加は難しいことが予想される。 (4) (5) (6) よい取組だと思う。 ・戦略的な広報活動が必要。 (6) 学校運営協議会への主体的参画をお願いしたい。 ・学校運営協議会は、校長の相談者として気軽に利用してほしい。

様式第 5 号

キ	生徒の学びを支える事務運営の効率化、円滑化と教育環境の充実	(1) 監査での指摘 0 件及び要求調書を活用した効果的な予算執行の実現	A	A	(1) 監査での指摘件数 0。引き続き適正な事務執行をお願いします。
		(2) 校務サポートシステム、自動採点システム、校内ネットワークの活用により業務が効率化したと答える教職員 70%以上			(2) 校内ネットワークの最新化、不断の更新はこの時代にとっても重要である。
ク	部活動の見直しと業務の効率化による職員のワークライフバランスの実現	(1) 業務の精選や平準化、時間外勤務の削減の方策が進んでいると答える教職員 70%以上 (2) (3) 働きがいを感じる事ができる教職員が 50%以上	A	A	(1) 部活動の統合と削減をどこまでやるか、3 年 5 年後を見据えたビジョンもあるといいと思う。 ・先生方の善意に頼る時代ではない。引き続き改善を期待する。 ・大幅向上。 ・業務削減が進んでいると考えると考え教員が大幅に増加しているのはすばらしい。 (2) 教員調査 Q1「働きがいを感じることができる」が 95.5%。素晴らしい組織だと感じる。無理せずにワークライフバランスを向上させていただきたい。 ・高い数値である。